

令和5年度(2023年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	国語	学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	古典探究	担当者	比企 絢子		
使用教材	教科書:新編古典探究(東京書籍)				
	教 材:体系古典文法(数研出版)・体系古典文法準拠ノート(数研出版)、古文単語330(文英堂)、				
	古文単語330ワークノート、カラー版新国語便覧(第一学習社)				
学習目標	1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。				
	2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。				
	3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
	4				
学習方法	1 確実に読む。予習で音読・授業で速読(時間を計測し、変化を見る)を習慣化する。確実に読めることが確実な内容理解につながります。				
	2 予習として本文をノートに書き写し、授業での書き込みができるようにする。また、語句を調べて自分でできるだけ通釈をしてみる。毎回、古文単語の小テストを行います。語彙を豊かにすることが読解力につながります。				
	3 板書は確実にノートに書く。板書以外でも大切なと思われることはノートに書き留めるようにする。質問に積極的に答えるだけでなく、古典に描かれた考えを自分のこととして捉え直し、比較して考えてみる。レポートの提出をしてもらいます。				
必ず取り組む最小目標	古文・漢文の読みを確実にし、作品内容を理解できる。古典の世界に興味関心を持ち、自主的に古典学習に取り組むことができる。				
実現したいと思う最大目標	文法事項を理解し、辞書を利用して本文の現代語訳ができる。時代背景・作者の考え・登場人物の心情を理解し、現代に生きる自分自身と比較し、豊かに表現することができる。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査、課題 ・夏休み明けテスト ・小テスト、単元テスト	・定期考査 ・課題への取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題、ノート提出状況
	A	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を深く身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。
	B	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解をしようと努めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるよう努めている。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うよう努めている。
	C	国語の知識や技能を身に付けていない。また、言語文化に対する理解を深めていない。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるよう努めていない。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うよう努めていない。

令和5年度(2023年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	公民	学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	公共	担当者	杉村 峰行		
使用教材	教科書 公共（実教出版）				
	資料集 ニュービジョン 公共（浜島書店）				
学習目標	1 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。				
	2 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。				
	3 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通してかんようされるべき、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める				
学習方法	授業を大切にすること				
	1 〔教科書の熟読、作業の丁寧さ、プリント・資料集の活用〕				
	2 テスト前に試験範囲は完璧に学習して仕上げる。 〔1～2週間前から教科書・ノート・プリントなどで丁寧な復習する。〕				
必ず取り組む最小目標	授業に臨む際には、生徒として最低限の義務を果たす。 〔居眠りをしない。私語を慎む。欠席数は充分注意すること。授業に必要な教材教具の用意、授業ノートの作成、配布プリントのファイル化、提出物の厳守〕				
実現したいと思う最大目標	現代の諸課題に対して、考察・選択・判断する能力を身に付け、日本の将来・未来により良い考えと行動が発揮できる人材となる。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。				
	観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査 ・課題 ・小テスト		・定期考査 ・課題 ・小テスト	・定期考査 ・課題 ・小テスト
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめることができる		①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる
	B	①話している人を見て、うなずくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる		①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている
	C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる		①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める	①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスがあれば課題をグループとともに解決することはできる

令和5年度(2023年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	地歴公民	学年	2 学年	単位数	4 単位
科目名	地理探究	担当者	辻 眞		
使用教材	教科書：新詳地理探究(帝国書院)				
	地図帳：新詳高等地図 (帝国書院)				
	資料集：新詳地理資料 COMPLETE 2022(帝国書院)				
学習目標	地理総合での学習を踏まえ、最新の世界情勢や学術動向をより深く理解し、現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
学習方法	1 授業を大切にし積極的に取り組み、重要な知識の定着に心がける。また、課題にしっかり取り組み、忘れずに提出する。				
	2 暗記だけでなく、グラフを分析したり地図の読図・作図などができることが重要である。わからない地名などが出てきたときには地図帳で調べることが大切である。				
	3 世界諸地域の生活・文化及び地球的課題を理解するためにも、新聞やテレビ等から積極的に情報を得ようとする姿勢が大切である。				
必ず取り組む最小目標	生徒として最低限の義務を果たすことができる。(1)出席する (2)私語・居眠りをしない (3)チャイム前着席・授業の準備を忘れない (4)ノートやプリントの記入は丁寧に行う。				
実現したいと思う最大目標	地球市民として「異文化の尊重」と「国際協力の推進」のために、(1)多文化共生 (2)持続可能な開発 (3)人権尊重 (4)公正さなどの実現をめざして積極的に関わっていこうとする態度を身につける。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	定期考査、課題、小テスト	定期考査、課題	学習活動状況、課題	
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめをすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる	①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる	
	B	①話している人を見て、うなずくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている	①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする	
	C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる	①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスがあれば課題をグループとともに解決することはできる	①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める	

令和5年度(2023年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	地理歴史	学年	2 学年	単位数	4 単位	
科目名	日本史探究	担当者	杉村 峰行			
使用教材	教科書 高等学校 日本史探究 新視点による日本通史とアジア・世界（清水書院）					
	史料集 図説 日本史通覧（帝国書院）					
学習目標	1 我が国の歴史の展開に関する諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解し、調査や諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる。					
	2 我が国の歴史の展開に関する事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、歴史的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察、構想、表現する。					
	3 我が国の歴史の展開に関する諸事象について、よりよい国家や社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国や他国の伝統や文化を尊重する。					
学習方法	1 授業を大切にすること 〔教科書の熟読、作業の丁寧さ、プリント・資料集の活用〕					
	2 テスト前に試験範囲は完璧に学習して仕上げる。 〔1～2週間前から教科書・ノート・プリントなどで丁寧に復習する。〕					
必ず取り組む最小目標	授業に臨む際には、生徒として最低限の義務を果たす。 〔居眠りをしない。私語を慎む。欠席数は充分注意すること。授業に必要な教材教具の用意、授業ノートの作成、配布プリントのファイル化、提出物の厳守〕					
実現したいと思う最大目標	日本の歴史について学ぶことで、日本の将来・未来により良い考えと行動が発揮できる人材となる。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査 ・課題 ・小テスト		・定期考査 ・課題 ・小テスト		・定期考査への取り組み状況 ・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめをすることができる		①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる		①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる
	B	①話している人を見て、うなずくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる		①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている		①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする
	C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる		①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスがあれば課題をグループとともに解決することはできる		①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める

令和5年度 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数 学	学年	2 学年	単位数	4 単位
科目名	数学Ⅱ	担当者	α 持田裕孝・β 菅野和明・γ 石黒雄佑		
使用教材	東京書籍 数学Ⅱ Standard				
	東京書籍 WIDE Ⅱ+B Standard Buddy				
学習目標	整式の性質を理解し、3次式以上の整式の展開や因数分解、整式の除法について理解をする。 また、証明の流れを理解し論理的な証明ができる。				
	2 複素数まで数の範囲を広げ、2次方程式について理解を深め、高次方程式を解くことができる。				
	3 図形の性質を座標平面上で考えることができる。				
	4 三角関数、対数関数、指数関数の性質を理解する。				
	5 微分法・積分法を計算問題で終わらせることなく、視覚的なものにも着眼して学習する。				
学習方法	1 授業ではノートをきちんとまとめ、プリント等の配布物をきちんと提出し、積極的に授業に取り組むように努力すること。				
	2 数学は積み重ねが大切な教科ですので、宿題＋小テストに毎回取り組み、副教材などで繰り返し復習し実力を高めること。				
	3 長期休業中の課題で、それまで学習したことをしっかり復習し、休業明けのテストで自分の学習成果を確認すること。				
必ず取り組む 最小目標					
実現したいと 思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価 方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況 ・主体的なノート提出
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 積極的に評価・改善しようとしたりしている。
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		数学のよさを認識し, 数学を活用しようとしたり, 数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとしたりしている。
	C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりすることができない。	数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識できない。数学的な表現を用いることができない。		数学のよさを認識しようとしせず, 粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようしない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとししない。

令和5年度(2023年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数 学	学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	数学B	担当者	持田裕孝 女鹿一洋		
使用教材	数学B Standard （東京書籍）				
	Standard Buddy WIDE 数学Ⅱ + B				
学習目標	1 簡単な数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。				
	2 確率変数とその分布、統計的な推測について理解し、それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。				
	3				
学習方法	1 授業ではノートをきちんとまとめ、プリント等の配布物をきちんと提出し、積極的に授業に取り組むように努力すること。				
	2 数学は積み重ねが大切な教科ですので、宿題＋小テストに毎回取り組み、副教材などで繰り返し復習し実力を高めること。				
	3 長期休業中の課題で、それまで学習したことをしっかり復習し、休業明けのテストで自分の学習成果を確認すること。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 積極的に評価・改善しようしたりしている。
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		数学のよさを認識し, 数学を活用しようしたり, 数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようしたりしている。
	C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりすることができない。	数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識できない。数学的な表現を用いることができない。		数学のよさを認識しようせず、粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようしない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようしない。

令和5年度(2023年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理 科	学年	2 学年	単位数	4 単位
科目名	化 学	担当者	氏家正規		
使用教材	高等学校 新化学基礎(第一学習社)				
	高等学校 化学(第一学習社)				
	新課程版 セミナーノート 化学(第一学習社)				
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。				
	2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。				
	3 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
学習方法	1 授業前に教科書を読み、重要語句・中学校での既習事項を確認する。				
	2 授業では、板書を写すことにとどまらず、計算過程や式の変形の過程を自分自身で繰り返し、理解を深める。				
	3 問題集を解き、理解度を確認する。小テストごとに復習する。復習なくして、知識や問題を解く力の定着は見込めない。プリントの発展的な問題にも積極的に取り組もう。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究している。
	B	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解している。あるいは、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見いだしている。または、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に主体的に関わっている。あるいは、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	C	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解していない。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けていない。	自然の事物・現象から問題を見いだせない。見通しをもって観察、実験などを行っていない。得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究していない。		自然の事物・現象に主体的に関わっていない。見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしていない。

令和5年度(2023年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理科		学年	2 学年	単位数	4 単位
科目名	生物		担当者	森 秀夫 ・ 高橋 玲美		
使用教材	生物(実教出版)					
	アクセスノート生物(実教出版) ※Libry版を購入					
	四訂版 サイエンスビュー生物(実況出版)					
学習目標	1 生物や生物現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、生物学的に探求する能力と態度を育てる。					
	2 生物や生物現象についての基本的な概念や原理・原則を理解し、科学的な自然観を育成する。					
	3 自然に対する総合的な見方を養う。					
学習方法	1 授業に集中し、板書を書き写すのみならず、説明をよく聞き、内容を理解する。					
	2 小テストや定期考査に向けて、家庭学習に取り組み、基礎知識を固める。					
	3 問題集などでの復習に努め、より多様な観点から、生物の成り立ちや制御のしくみ、行動等を理解する。					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	小テスト 定期考査 実験		定期考査 課題プリント		ノート・プリント ペアワーク・グループワーク
	A	生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を身につけているとともに、生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を習得している。		生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができ、生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することができる。		生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。
	B	生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を概ね身につけているとともに、生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を概ね習得している。		生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることが概ねでき、生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することが概ねできる。		生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとして概ねしている。
	C	生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則の理解がなく、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけておらず、生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能も習得していない。		生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができず、生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することもできない。		生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとしていない。

令和5年度(2023年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理 科	学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	物理基礎	担当者	氏家正規		
使用教材	新編 物理基礎(東京書籍)				
	新課程 レッツライノート 物理基礎 Vol.1 (東京書籍)				
	新課程 レッツライノート 物理基礎 Vol.2 (東京書籍)				
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。				
	2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。				
	3 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
学習方法	1 授業前に教科書を読み、重要語句・中学校での既習事項を確認する。				
	2 授業では、板書を写すことにとどまらず、計算過程や式の変形の過程を自分自身で繰り返し、理解を深める。				
	3 問題集を解き、理解度を確認する。小テストごとに復習する。復習なくして、知識や問題を解く力の定着は見込めない。プリントの発展的な問題にも積極的に取り組もう。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究している。
	B	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解している。あるいは、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見いだしている。または、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に主体的に関わっている。あるいは、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	C	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解していない。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けていない。	自然の事物・現象から問題を見いだせない。見通しをもって観察、実験などを行っていない。得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究していない。		自然の事物・現象に主体的に関わっていない。見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしていない。

令和5年度(2023年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	保健体育	学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	体育	担当者	野崎貴裕・市山貴一・加藤武志・奥恭平		
使用教材					
学習目標	1 運動の多様性・体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付け、活用する力を養う。				
	2 課題の発見・解決のために思考、判断するとともに、それを他者に伝える力を養う。				
	3 公正・協力・責任・参画などの意欲を育て、生涯にわたり継続的に運動に親しむ資質・能力を養う。				
学習方法	1 積極的に授業に参加し、その種目の知識や技能、そして安全について理解する。				
	2 自己やチームについて課題の発見と解決を目指し、周囲とコミュニケーションをとりながら練習や試合の工夫に取り組む。				
	3 ペアワークやグループワークにより、身体活動と共に、言語活動が活発になるよう積極的に取り組む。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・技能テスト ・ルールテスト	・ワークシート ・グループ活動の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況
	A	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について深く理解しているとともに、目的に応じた高い技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝え合意形成を図っている。		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組んでいる。
	B	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。
	C	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しておらず、目的に応じた技能を身に付けていない。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしていない。

令和5年度(2023年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	保健体育	学年	2 学年	単位数	1 単位
科目名	保健	担当者	市山 貴一		
使用教材	大修館書店 現代高等保健体育(保体701)				
学習目標	1 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、技能を身に付けるようにする。				
	2 健康についての課題を発見し、解決に向け計画的に行動できるような思考・判断できる力を養う。				
	3 健康について、課題の解決を合理的にするため、状況に応じ他者に伝える力を養う。				
	4 生涯を通じて、健康の保持増進や環境づくりを目指し、活力ある生活を営む態度を養う。				
学習方法	1 自分自身の健康管理について理解し、課題発見と解決に向け主体的に取り組む。				
	2 時間毎の口頭質問や、単元毎の小テストを行うことで、理解を深められるよう積極的に取り組む。				
	3 ペアワークやグループワークにより、言語活動が活発になるよう積極的に取り組む。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題 ・小テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、必要な言語や知識などについて深く理解し、言ったり書いたりすることができる。	・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、原則や概念を基に整理したり、自他や社会の課題を発見し、その解決方法や選択した理由などを話し合ったり、記述するなど筋道を立てて説明している。		・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
	B	・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、必要な言語や知識などについて理解し、言ったり書いたりすることができる。	・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、原則や概念を基に整理したり、自他や社会の課題を発見し、その解決方法や選択した理由などを話し合ったり、記述するなど概ね筋道を立てて説明している。		・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、課題の解決に向けた学習に取り組もうとしている。
	C	・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、必要な言語や知識などについて理解せず、言ったり書いたりすることができない。	・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、原則や概念を基に整理できず、自他や社会の課題を発見したり、その解決方法や選択した理由などを話し合ったり、記述するなど筋道を立てて説明できない。		・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、課題の解決に向けた学習に取り組もうとしていない。

令和5年度(2023年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	外国語	学年	2 学年	単位数	3 単位
科目名	英語コミュニケーションⅡ	担当者	佐藤 光弘		
使用教材	Grove English CommunicationⅡ (文英堂)				
	ユメタン1(アルク)、BIG DIPPER(数研出版)、教科書ワークブック、e-learning				
	リスニングパイロットVol2. (東京書籍)				
学習目標	1	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話しの展開や話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。			
	2	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。			
	3	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の文で詳しく話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。			
	4	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の文で詳しく話して伝えることができる。			
	5	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができる。			
学習方法	1	プリントによる課題・・・ 予習(①新出単語・熟語の意味調べ ②本文の全訳) 授業(①チャンク分け ②ワークシートの記入 ③音読 ④穴埋めシート) 復習(①本文の全訳確認 ②音読練習)			
	2	新出語の意味確認・発音練習 → 本文の内容理解(文法事項も含む) → 本文の音読練習 → 本文の暗誦			
	3	小テスト(ユメタン、本文の穴埋めテストなど)			
必ず取り組む 最小目標					
実現したいと 思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価 方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・単語テスト,スピーキングテス	・定期考査 ・課題の取り組み状況 ・英作文演習	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況 ・e-learning学習状況	
	A	外国語の音声や語彙、表現、文法の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて、多様にかつ自在に活用する技能を身に付けている。	日常的な話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて論理的に注意して表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に情報や自分の考え・気持ちなどを論理的に注意して詳しく表現しようとして伝え合おうとしたりする態度を身に付けている。	
	B	外国語の音声や語彙、表現、文法の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて、多様にかつ自在に活用する技能を概ね身に付けている。	日常的な話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて論理的に注意して表現したり伝え合ったりする力を概ね身に付けている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に情報や自分の考え・気持ちなどを論理的に注意して詳しく表現しようとして伝え合おうとしたりする態度を概ね身に付けている。	
C	外国語の音声や語彙、表現、文法の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて、多様にかつ自在に活用する技能を身に付けていない。	日常的な話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて論理的に注意して表現したり伝え合ったりする力を身に付けていない。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に情報や自分の考え・気持ちなどを論理的に注意して詳しく表現しようとして伝え合おうとしたりする態度を身に付けていない。		

令和5年度(2023年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	外国語		学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	論理・表現 I		担当者	小泉孝志 原林有里		
使用教材	・EARTHRISE English Logic and Expression I Standard					
	・EARTHRISE English Logic and Expression I Standard ワークブック					
	・タブレット(辞書)					
学習目標	1	・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、発表することができる。 ・英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら話すことができる。 ・リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら話すことができる。				
	2	・事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができる。 ・事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどの要点や詳細をとらえることができる。 ・未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞くことができる。				
	3	・説明や物語などを読んで、情報や考えなどの概要をとらえることができる。 ・事実と意見などを区別して読むことができる。 ・説明や物語などを、聞き手に伝わるように音読することができる。 ・内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読むことができる。				
	4	・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔な文章を書くことができる。 ・内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら書くことができる。 ・事実と意見などを区別して書くことができる。				
	5					
学習方法	1	授業(①会話文リスニング・スピーキング練習②文法事項練習③作文練習)				
	2	復習(①会話文スピーキング ②文法事項練習③作文練習)				
	3	予習(①会話文スピーキング ②文法事項練習③作文練習)				
必ず取り組む 最小目標						
実現したいと 思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	評価 方法	・定期考査, 課題 スピーキングテスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。	
	B	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を概ね身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を概ね身に付けている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を概ね身に付けている。	
C	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けていない。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けていない。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けていない。		

令和5年度(2023年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	家庭科	学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	家庭基礎	担当者	小 林 郁 美		
使用教材	教科書「家基705家庭基礎 気づく力築く未来」				
	資料集「生活ハンドブック」				
学習目標	1 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。				
	2 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。				
	3 さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。				
	4				
学習方法	1 教科書、資料集、ワークシート、タブレットを使用し、教室で授業、グループワークなどを行う。				
	2 食生活については、学んだ内容をもとに調理室において調理実習を行う。				
	3 衣生活など必要に応じて、被服室においてモニターや教材を使用しグループワークを行う。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	定期考査 ワークシート 実習	定期考査 ワークシート 実習		定期考査 ワークシート 実習
	A	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を記述できる。		さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
	B	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについておおむね理解している。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を考えて記述できる。		さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
	C	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどし		さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し

	女は家庭、家庭、家長は、用具や環境などについて理解が不十分である。	ノックアウト時に役立つ情報を提供し、課題をまとめることができない。	家庭、地域、学校と連携し、実践できることを考えさせる。
--	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------

令和5年度(2023年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	商 業		学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	情報処理		担当者	横田 たき子		
使用教材	情報処理 新訂版(実教出版)					
	情報処理技能検定試験 表計算2・準2級 問題集					
学習目標	1 実社会で利用されている情報の意義や役割を理解して、自らも積極的に活用する態度を身に付ける。					
	2 ビジネスの諸活動で使用されている文書や書類の種類と形式を理解し、適切な文書が作成できるようにする。					
	3 実習の中で、効率の良い作業方法を探求し、また常に正確な処理を心掛ける姿勢を身に付ける。					
学習方法	1 自分の理解を補うために、積極的にメモをとりながら授業を受けましょう。					
	2 授業中に行う実技課題について、授業で仕上げられない場合には昼休みや放課後の時間を使い、締め切りの期日を守って完成させること。					
	3 毎時間の授業を大切にし、復習課題は期限を守ってしっかりと取り組みましょう。					
必ず取り組む最小目標	課題は丁寧に取り組む。日検情報処理検定を準2級取得する。					
実現したいと思う最大目標	授業で得た知識と技術を生かし、情報処理に関する作業をわかりやすく、効率的に改善する姿勢を身につける。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・課題 ・小テスト		・課題 ・小テスト ・取り組み記録		・課題 ・小テスト ・取り組み記録
	A	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組み、評価・改善している。
	B	企業において情報を扱うことについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術をおおむね身に付けている。		企業において情報を扱うことに関して理解し、ビジネスに携わる者として課題を解決しようとしている		自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的に取り組もうとしている。また、自己の技術向上のために自ら改善しようとしている。
	C	企業において情報を扱うことについての知識と、関連する技術を身につけていない。		企業において情報を扱うことに関して思考していない。また、ビジネスに携わる者として課題の解決に取り組もうとしていない。		自ら学ぼうとせず、自己の技術向上のための改善をしようとしていない。

令和5年度(2023年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	商 業		学年	2 学年	単位数	4 単位
科目名	簿記		担当者	横田 たき子		
使用教材	高校簿記					
	スピードマスター精選簿記演習					
	全経簿記検定試験PAST 3級(9月から使用予定)					
	完全分類全経2級商簿(11月以降に使用)					
学習目標	1	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。				
	2	(2)取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。				
	3	(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
学習方法	1	自分の理解を補うために、メモを取るなどしながら積極的な態度で授業を受けましょう。				
	2	小テストで理解度と学習成果を確認します。学習方法を見直し、改善を繰り返しましょう。				
	3	復習(問題練習)が欠かせない科目です。自分で判断しながら、しっかり取り組みましょう。				
必ず取り組む最小目標	課題は丁寧に取り組む。 全経簿記検定3級を取得に向けて努力する。					
実現したいと思う最大目標	実務社会でも通用するよう、簿記会計の全体構造を理解する。簿記会計の学習から、企業の経済活動の理解を深める。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査 ・課題 ・小テスト		・定期考査 ・課題 ・小テスト		・定期考査 ・課題 ・小テスト
	A	簿記を体系的に理解して取引を正確に記録することができ、決算書を作成するために必要な知識・能力が身についている。また、簿記の理論が実務の場面に即した理解となって身についている。		取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と実務に適用することにもなる課題を見いだすとともに、工夫してよりよく課題に対応する力が身についている。		簿記について、みずから学ぶ姿勢をもち、学習法を改善しながら適正な取引の記録と財務諸表の作成法を身につけ、積極的に取り組む態度が身についている。
	B	簿記の取引を適切に記録・処理する知識と技能がおおむね身についている。		取引の記録と財務諸表の作成の方法としくみを理解し、正確でわかりやすい業務のために、処理方法をより良く工夫することができる。		簿記について、目標を持って学習し、小テストなどをとおして自らの学習法を振り返り、改善しようとしている。
	C	各帳簿の役割や取引を適切に処理する知識が身についていない。		取引の記録と財務諸表の作成に関し、見やすく正確な処理に努めようとしない。		簿記の学習に対して目標を持たず、学習法の振り返りや改善をしようとしない。